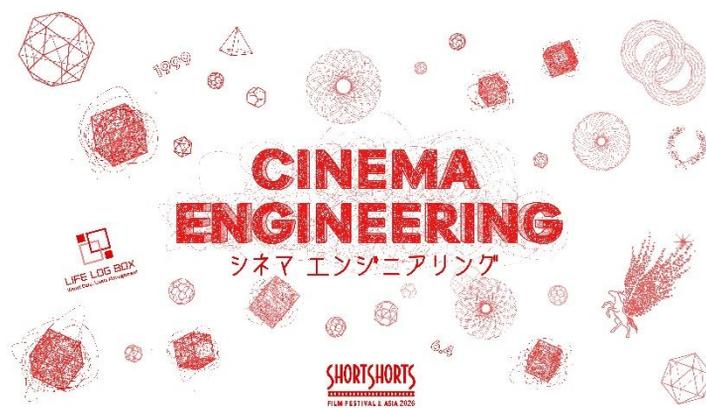


米国アカデミー賞公認 アジア最大級の国際短編映画祭 東京発ショートフィルムの祭典

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026 『シネマエンジニアリング』をテーマに 第28回目の開催を発表

【東京会場 5/25 (月) ~6/10 (水) / オンライン会場 ~6/30 (火)】

**世界100以上の国と地域から「今」を映す約5000点ものショートフィルムが集結！
AIとの共創から生まれた最新ショートから「食」と「アート」の上映プログラムまで**

米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭、ショートショート フィルムフェスティバル & アジア（略称：SSFF & ASIA）2026は、5月25日（月）から6月10日（水）に東京都内複数会場およびオンライン会場での開催を決定いたしました（オンライン会場は6月30日（火）まで）。<https://www.shortshorts.org/2026>

今年は、3月28日にグランドオープンするTAKANAWA GATEWAY CITYの中にあり、建築家の隈研吾さんが外装デザインを手掛ける実験的ミュージアム「MoN Takanawa: The Museum of Narratives（モン タカナワ：ザ・ミュージアム・オブ・ナラティブズ）」でオープニングセレモニーとレッドカーペットを開催し、続く映画祭上映を皮切ります。

イラン、イスラエル、パレスチナ、イエメン、シリア、ウクライナなど、戦禍にある国々からも 世界100以上の国と地域から約5000点以上の応募 AIを活用したショートフィルムは過去最大の368点・音楽をAIで制作するトレンドも

世界各国の「今」が凝縮された応募作。インターナショナルカテゴリーでは、家族の絆や喪失からの再生を、アジアカテゴリーでは都市化による孤独や戦争・政治的制約の中での葛藤を鋭く描く作品傾向が見えてきています。ジャパノカテゴリーでは、不況やデジタル社会のプレッシャー、現代の家族像といった身近な心理ドラマが、そして、アニメーション部門・ノンフィクション部門では、SNS依存への警鐘や地球温暖化、核問題の再考など、視覚表現を駆使して社会へ問いかける作品が目立ちました。

AIを活用した作品は368点と昨年を上回る史上最多の応募数。中でも、著作権問題が障壁となりやすい「音楽」をAIで制作・活用する作品は興味深いトレンドとなっています。さらに今年は、3月に京都で開催された世界初・最大級のAI特化型映画祭「WORLD AI FILM FESTIVAL」とパートナーシップを締結し、AI映像として最先端・最高峰を目指す主要受賞作品を特別上映いたします。

映画体験の真の価値とは—「シネマエンジニアリング」テーマのもと、 五感で体験する「食」と「アート」のスペシャルプログラムも

カメラ、照明、音響、そしてAI。それらを緻密に組み合わせ、観客の心に届く体験を組み立てる——今年の映画祭はそんな「設計学」としての映画に光を当て、「シネマエンジニアリング」をテーマに開催します。動画が溢れ、アルゴリズムに消費される現代だからこそ、「映画体験」の真の価値とは何かを一緒に考えていく映画祭です。AIが表現の壁を取り払い、「縦型」が新たな視覚言語として確立された今、世界中からクリエイターが集い、次世代の映像の在り方を探究します。

さらに、今年のSSFF & ASIAは、五感を研ぎ澄まして体験いただくスペシャルプログラムを上映予定。イタリアの受刑者たちが料理と演技を通じて自らの過去や希望と向き合う姿を描く物語や、コロナ禍の閉塞感の中で友情を育んだ少女たちが一杯のラーメンを囲んで再会を果たす物語など、「食と記憶」が織りなす人生ドラマを多角的な視点で集めた「食」のプログラム、そして、舞踊、音楽、アニメーションなど多様なアートを、豊敷きの映画祭会場で味わう「アート」プログラムを用意しています。

AIとの共生が進む2026年、あえて人間の知覚を「エンジニアリング」し、心を揺さぶるための設計図を共有しあう。そんな熱狂の場へ皆さんをご案内します。

なお、翌年のアカデミー賞ノミネートに通じる5部門（インターナショナル、アジア インターナショナル、ジャパンのライブアクション部門、ノンフィクション部門、アニメーション部門）をはじめ、映画祭入選作品の上映・配信ラインナップは4月23日（木）に発表となります。

また、映画祭に先駆けて、クリエイター、バイヤーが参加するオンラインシネママーケットもスタート。スポーツをテーマにしたショートフィルムコンテンツを特集紹介してまいります。

SSFF & ASIA 2026 アンバサダー LiLiCoさんのコメント



SSFF & ASIA 2026 アンバサダー LiLiCoさん

さあ、この季節がやって来ました！

代表の別所哲也さんとスタッフみんなが世界中の映画ラバーズと長きに渡って気付き上げた信頼と絆のお陰でどんどん大きくなるこの映画祭。

日本と海外からいらっしゃるクリエイターとお話しをして作品を見たり、語ったり、街をお掃除したり、乾杯したり...同じものが好きだからこそ生まれる最高に熱いケミストリー。

上映される作品たちを作った人たち、つまり作品の"こころ"に出会えるこのときが一年で最も素敵な時間。

そこからみんなのところに届ける。世界一アットホームな映画祭でもあると思っています。

心の底からみんなを迎え入れます。

LiLiCo

SSFF & ASIA代表 別所哲也のコメント



SSFF & ASIA 2025アワードセレモニーより

SSFF & ASIA 代表 別所哲也

AIがもはや特別な魔法ではなく、カメラや照明と同じ「光の筆」として映画の一部となっている今。

映画祭はAIと人間の共創、そしてスマホが生んだ新たな視覚言語「縦型映像」が芸術へと昇華される、映画史の転換点を目の当たりにしています。

一方で、私たちがフォーカスする「食」と「アート」の物語をはじめ、まさに世界の「今」が語られる作品の数々には、不変の人間愛や

記憶が宿っています。

テクノロジーとアナログな感性をどう「設計（エンジニアリング）」し、混迷する社会に希望を映し出すか。

世界から集まった珠玉のショートフィルムを通じて、皆さんと、動画が溢れる現代における「映画体験の真の価値」を一緒に探してみたいと思います。

「シネマエンジニアリング」のテーマをもとに、 五感をインスパイアする映画祭プロモーション動画を募集



優秀作品は映画祭セレモニーで上映&賞金10万円第28回目を迎える映画祭開催に向けて、テーマ「シネマエンジニアリング」をテーマに、視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚と五感をインスパイアするような映画祭プロモーション動画を募集します。映画祭実行委員会の審査を勝ち抜いた動画が、5月末～6月に行われるSSFF & ASIA 2026のセレモニーなどで上映される予定です。

URL <https://lifelogbox.com/ssff-asia-2026-movie-contest/>

Short Shorts Film Festival & Asia 2026 のロゴ及び「シネマエンジニアリング」をモチーフにしたメインビジュアルを下記サイトよりダウンロードし、動画内に用いても構いません。

ダウンロードはこちら!

URL: <https://drive.google.com/drive/folders/1aYLFYY3c00uh7knVxj8QJlCl1qhnCctQ?usp=sharing>

【応募期間】2026年3月26日(木)14:00- 2026年5月11日(月) 24:00

【登録料】無料【賞】優秀賞:10万円 ※賞の名称、賞金等は変更の可能性があります。また、該当する作品がない場合もあります。

【選考結果通知】映画祭セレモニーで優秀作品を実際に上映し、発表となります。

【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026 概要】

■映画祭代表：別所 哲也

■開催期間：

5月25日（月）オープニングセレモニー

5月26日（火）～6月9日（火）東京会場

6月10日（水）アワードセレモニー

※オンライン会場は 5月25日（月）～6月30日（火）

（期間により配信プログラムが異なります。）

■上映会場：MoN Takanawa: The Museum of Narratives

（Box1000、Tatami、パークテラス）

赤坂インターシティコンファレンス、ユーロライブ、

WITH HARAJUKUほか

※会場により、期間、プログラムが異なります。

■チケット：上映会場、オンライン会場ともに有料、一部イベントは無料

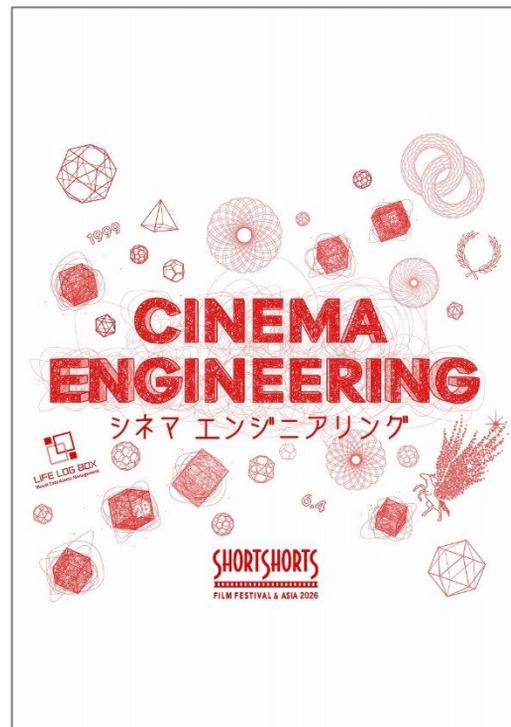
販売開始は4月23日（木）14:00～

■一般からのお問い合わせ先：info@shortshorts.org

■オフィシャルサイト：<https://www.shortshorts.org/2026>

※2026年のラインナップは4月25日（木）に公開

■主催：ショートショート実行委員会 / ショートショート アジア実行委員会



【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア】

SHORTSHORTS

FILM FESTIVAL & ASIA

米国俳優協会（SAG）の会員でもある俳優 別所哲也が、米国で出会った「ショートフィルム」を、新しい映像ジャンルとして日本に紹介したいとの思いから1999年にアメリカン・ショート・ショートフィルムフェスティバル創立。2001年には名称を「ショートショート フィルムフェスティバル（SSFF）」とし、2004年に米国アカデミー賞公認映画祭に認定されました。

また同年、アジア発の新しい映像文化の発信・新進若手映像作家の育成を目的とし、「ショートショート フィルムフェスティバル アジア（SSFF ASIA 共催：東京都）」が誕生。現在は「SSFF & ASIA」を総称として映画祭を開催しています。

2018年に映画祭が20周年を迎えたことを記念し、グランプリ作品はジョージ・ルーカス監督の名を冠した「ジョージ・ルーカス アワード」となりました。2019年1月には、20周年の記念イベントとして「ショートショートフィルムフェスティバル in ハリウッド」が行われ、また、2019年の映画祭より、ライブアクション部門（インターナショナル、アジアインターナショナル、ジャパンの各カテゴリー）およびノンフィクション部門の各優秀賞4作品が、2022年からはアニメーション部門の優秀賞を含む5作品が、翌年のアカデミー賞短編部門へのノミネート候補とされる権利を獲得しました。SSFF & ASIAは映画祭を通じて引き続き、若きクリエイターを応援してまいります。

【公式ウェブサイト】<https://www.shortshorts.org>

【本件に関するお問い合わせ先】

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア PR事務局（株式会社サニーサイドアップ内）
阿部、武田

TEL：03-6894-3200 / FAX：03-5413-3050 / E-mail：SSFF@ssu.co.jp

ショートショート実行委員会 担当：田中 TEL：03-5474-8201 / FAX：03-5474-8202 / E-mail：
press@shortshorts.org

画像は下記よりダウンロードいただけます（期間：3月25日～6月30日）

https://drive.google.com/drive/folders/1XSqtVHTw_IMjgSS43nEW7iMCrt8Cz_RP?usp=sharing